

令和4年度 田尻さくら高等学校 学校評価 補足資料

学校評価の意義

(高等学校に準用)

小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。

[学校教育法第42条]

回収率

生徒：一昨年度79%→昨年度71%→今年度75% (WEB回答85%/紙回答15%)

今年も昨年に引き続きQRコードを読み取ってスマホからも提出できるようにした。

保護者：(H29)59%→(H30)64%→(R1)51%→(R2)63%→(R3)52%→(R4)49%

例年通り第2回考査の通知表と一緒にアンケート用紙を郵送、紙で提出していただいた。

肯定的評価(%)：「1よく当てはまる」+「2だいたい当てはまる」

(%)

校訓・教育目標		2022 肯定的評価	2021 肯定的評価	前年比 +肯定的 -否定的
生3	校訓を知っている。[本校の校訓 (1) 自律 (2) 進取 (3) 誠実]	74	73	1
保1	「教育目標」を理解している。	91	91	0

学習指導		2022 肯定的評価	2021 肯定的評価	前年比 +肯定的 -否定的
生5	田尻さくら高校の特色である少人数授業は、授業内容を理解するのに役立っている。	94	95	-1
生12	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	86	86	0
保2	田尻さくら高校は子どもの教育に熱心に取り組んでいる。	95	98	-3
保5	お子様は、学習の仕方や内容を身につけている。	82	76	6
保6	田尻さくら高校の特色である少人数授業は、授業内容を理解するのに役立つ。	98	99	-1
保12	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	89	95	-6

少人数授業による授業内容の理解(生徒94%、保護者98%、教員98%)の評価の割合が高くなっている。少人数授業については、定員に対する入学者の割合が少ないことがその起因になっている。我々が求められているのは、個々の授業で、学ぶ意欲を引き出す工夫の実践が必要であると数値から読み取れる。

図書館の利用		2022 肯定的評価	2021 肯定的評価	前年比 +肯定的 -否定的
生6	図書館は利用しやすい雰囲気である。	86	85	1
保7	お子様たちの学習や読書活動に図書館が役立っている。	73	75	-2

図書館については、生徒の肯定的評価が毎年8割を超えており、生徒の教育に大変寄与していると思われる。以前は、科目履修生も盛んに利用していたようである。今年度4月から11月までの図書貸し出し数は、422冊(生徒177冊、教員245冊)である。昨年は、1年間で668冊(生徒245冊、教員423冊)であった。コロナ禍前のH30年度は、1147冊(生徒442冊、科目履修生270冊、教員435冊)と多く、図書館の利用と読書の大切さ、そして利用マナーの向上をさくら高校で浸透させていきたい。また、保護者の意見にII部帯の時間に図書館が解放されていないことが残念であるとの意見があった。

生活指導		2022 肯定的評価	2021 肯定的評価	前年比 +肯定的 -否定的
生7	生徒指導は、社会常識を踏まえており、適切である。	84	86	-2
保8	生徒指導は、社会常識を踏まえており、適切である。	94	97	-3
生13	挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。	89	83	6
保13	挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。	93	85	8

挨拶については、教職員が授業や廊下等で生徒に挨拶をし続けている結果が生徒に伝播し数字として反映されていると感じる。挨拶は社会に出たら基本となるものなので生徒からもどんどん積極的に出来るように指導して行かなければと思う。マナーについても、公共の場におけるルールを継続的に粘り強く生徒に伝えていくことが肝要であると考え。教職員には、社会常識を認識しながら適切な指導をさらに進めていくことが期待されている。

愛好会活動		2022 肯定的評価	2021 肯定的評価	前年比 +肯定的 -否定的
生16	愛好会活動は活発に行われている。	76	84	-8
保16	愛好会活動は活発に行われている。	68	77	-9
肯定的評価が昨年度よりもダウンしたが、コロナ禍前の令和元年(生徒76%、保護者65%)の数値並である。団体数は昨年よりも多いが、活動内容が充実していなかったことが懸念される。前期・後期の募集の案内やオリエンテーション等で生徒に活動の大切さを意識させていく必要がありそうだ。				

自治会活動		2022 肯定的評価	2021 肯定的評価	前年比 +肯定的 -否定的
生17	自治会活動は活発に行われている。	72	83	-11
保17	自治会活動は活発に行われている。	80	83	-3
今年度は自治会の活動が生徒になかなか伝わっていないようだ(ここ数年の生徒の肯定的評価80%前後)。コロナ禍でも学校行事の要所要所で活躍していたところが評価されている。				

学校行事		2022 肯定的評価	2021 肯定的評価	前年比 +肯定的 -否定的
生18	スポーツ祭や高校祭、講演会など、有意義な学校行事がある。	90	90	0
保18	スポーツ祭や高校祭、講演会など、お子さんにとって有意義な学校行事がある。	94	96	-2
教11	教職員は学校行事で、その趣旨・目的を理解し指導にあたっている。	91	95	-4

進路指導		2022 肯定的評価	2021 肯定的評価	前年比 +肯定的 -否定的
生8	進路に関する資料はわかりやすい。	88	90	-2
生14	進路志望別見学会や進路講話など、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	92	93	-1
保9	進路に関する各種情報が適切に提供されている。	92	88	4
保14	進路志望別見学会や進路講話など、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	90	90	0
本校の進路指導全般について、生徒・保護者から高評価であった。コロナ禍で、応募前見学や就職試験に支障をきたした。				

生徒の健康管理		2022 肯定的評価	2021 肯定的評価	前年比 +肯定的 -否定的
生9	保健室は利用しやすく、自分の心身の健康管理に役立っている。	85	80	5
保10	学校としてお子様の心身の健康管理に努めている。	91	91	0

生10	日常の清掃活動にまじめに取り組んでいる。	80	79	1
保11	学校として日常の清掃活動がなされており、衛生的である。	94	98	-4
生徒の保健室の利用について、今年度は4月から10月までで利用数は1930、昨年度1年間の利用数は、3181と利用度が高い(H30年度は1202)。自分自身の心と健康管理について日常から考えていくことが大切であると感じる。清掃活動への取り組みについては、挨拶やマナーと同様、粘り強く指導していかなければならない。				

災害時の避難・連絡		2022 肯定的評価	2021 肯定的評価	前年比 +肯定的 -否定的
生11	災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。	84	86	-2
保20	保護者に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。	92	86	6
災害・非常時の安否確認メールの練習は、生徒の防災に対する意識付けに役立った。いつ災害が起こるか分からないことから、今後とも教職員が防災に関する意識を高く持つことが大事であり、常時防災マニュアルを確認する必要がある。保護者の回答も肯定的な回答(92%)が高かった。すまいる園との合同避難訓練は次年度の実施に期待したい。				

特色ある学校づくり		2022 肯定的評価	2021 肯定的評価	前年比 +肯定的 -否定的
生19	田尻さくら高校は、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。	80	86	-6
保19	田尻さくら高校は、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。	94	94	0

学校の情報		2022 肯定的評価	2021 肯定的評価	前年比 +肯定的 -否定的
生20	保護者に対して、田尻さくら通信やさくらメールなどによって、学校の情報は適切に伝えられている。	91	97	-6
保21	保護者に対して、田尻さくら通信やさくらメールなどによって、学校の情報は適切に伝えられている。	96	95	1
HP、メール配信、さくら通信等を通して、保護者や地域に学校の情報が適切に伝わっている結果がしっかりと反映されている。				

校舎等の施設設備		2022 肯定的評価	2021 肯定的評価	前年比 +肯定的 -否定的
生22	校舎やグラウンドなどの施設や設備は整っている。	83	90	-7
保22	校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。	95	91	4

教育相談		2022 肯定的評価	2021 肯定的評価	前年比 +肯定的 -否定的
生15	教員やカウンセラー、ソーシャルワーカー、学校生活適応支援員が必要なときに相談に応じてくれる体制ができている。	90	89	1
保15	教員やカウンセラー、ソーシャルワーカー、学校生活適応支援員が必要なときに相談に応じてくれる体制ができている。	97	96	1
SC、SSW、学校生活適応支援員とも信頼は厚く、利用は多い。SC、SSWについては、1ヶ月先でも予約が取れないことが多く、生徒が必要なときに支援が受けられないことが残念だ。				

いじめの早期発見・共有		2022 肯定的評価	2021 肯定的評価	前年比 +肯定的 -否定的
生22	学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。	71	79	-8
保23	学校と保護者が、いじめ問題に対する取組方針を共有している。	86	84	2
いじめに関する指導については、毎月アンケートを行うなど早期発見に取り組んでいる。いじめに関する指導については、日頃から授業、S H R等を利用して今後とも常時把握に努め、職員間でしっかりと共有する必要がある。				

P T A活動		2022 肯定的評価	2021 肯定的評価	前年比 +肯定的 -否定的
保4	P T A活動は活発であり、その取り組みは活発である。	83	84	-1
PTA活動については、役員保護者19名、さくら高祭サポーター28名と保護者の1/4になっている。P T A役員会には毎回多くの保護者の方々に参加していただき、さくら高祭PTA研修では、多数の保護者教職員のご協力・アイデアのおかげでゲームも盛況となって、成功裏に終えることができた。P T A通信も好評であった。				

学校生活の充実度		2022 肯定的評価	2021 肯定的評価	前年比 +肯定的 -否定的
生4	田尻さくら高校に入学して良かった。	85	80	5
生23	学校生活はとても充実している。	77	75	2
保3	お子様を田尻さくら高校に入れてよかった。	99	95	4
保24	お子様の学校生活は充実している。	92	86	6
この評価を提出された保護者99%が「田尻さくら高校に子どもが入学してよかった」との回答より、子どもの様子を介して本校の教育活動に肯定的な評価が下されたと判断できる。今後ともきめ細やかな指導を一つ一つしっかりと職員で共有して生徒に還元していくことが肝要である。				